

東区まちづくりビジョンの検証

～ 目 次 ～

- 東区まちづくりビジョンとは……………P2
- ビジョンの構成……………P3
- ビジョンの検証
 - ・目的、手法……………P5
 - ・結果……………P6
- ビジョンに基づく区役所の取組等について………P10
- これからのまちづくりの方向性について………P21

令和5年(2023年)3月 東区総務企画課

東区まちづくりビジョンとは

- 平成24年4月政令指定都市に移行したことを受け、東区の特性を生かした市民協働の新しいまちづくりを推進することとなった。
- 「東区まちづくりビジョン」(以下「ビジョン」という。)は、東区民の「こんなまちにしたい」という想いを実現するため、地域と区役所が積極的に協力・連携し、地域の様々な課題解決に取り組むとともに、地域力を最大限に生かしたまちづくりを進めるための方向性を示したものの。
- 策定にあたっては、学識経験者・校区自治協議会等の地域の方と東区役所の職員とで「まちづくり懇話会」を開催し、さらに区民アンケート、ワークショップ、各地域団体ヒアリング等を行い、意見交換を実施。
- 5つの基本方針と13の重点的テーマにまとめた。

東区まちづくりビジョンの構成

5つの基本方針と13の重点的テーマ

基本方針		重点的テーマ
1	人と人とがつながり世代を越えて語り合えるまち	地域コミュニティ活動への参加促進
		地域団体の育成・支援
		地域の歴史・文化の活用
2	誰もが安全で安心して過ごせるまち	防犯活動の推進
		交通安全対策の推進
		災害に強いまちづくり
3	誰もがいきいきと暮らせるまち	健康づくり活動の推進
		子どもの育成環境づくり
		みんなで助け合う福祉のまちづくり
4	美しい自然を守り育てふれあえるまち	地域自然の保全と活用
		まちの美化活動の推進
5	暮らしやすく活気あふれるまち	地域に根ざした経済の活性化
		生活環境の整備促進

ビジョン検証の目的、手法、結果

東区まちづくりビジョンの検証(目的・手法)

◆ 検証の目的

ビジョン策定(平成24年度)から10年が経過したことから、東区のこれまでのまちづくりを振り返り、これからの課題や重点的に取り組むべきことを抽出することで、今後の東区の新たなまちづくりに活かす。

◆ 検証の手法

	対象者	調査方法	備考
市民アンケート	・東区在住の16歳以上無作為2,000名 ※策定時に実施したアンケートと同じ対象者数	・紙のアンケートを郵送 ・紙、Webによる回答 ・670名から回答(回答率33.5%) ※策定時に実施したアンケートは552名が回答。(郵送のみ。回答率27.6%)	・策定時に実施したアンケートと同じ内容の設問に加え、熊本地震、新型コロナウイルスの影響を加味した設問を設定
地域団体等アンケート	・校区自治協議会やPTA、青少年育成協議会等の地域団体計10団体、69組織 ※策定時に実施した団体をもとに対象を選定	・紙のアンケートを郵送 ・紙、メール、Webによる回答 ・26の組織から回答。(回答率39.4%)	・P6～8参照
東区まちづくり懇話会ワークショップ	・東区まちづくり懇話会委員14名 ・熊本県立大学生10名	・集合形式によるワークショップ	
熊本県立大学生へ追加アンケート	・ワークショップに参加いただいた県立大学生10名	・アンケートフォームへの入力による回答 ・6名から回答	・P9参照

東区まちづくりビジョンの検証(結果)

地域団体等アンケート結果

(1)地域団体に対する調査項目

①各地域団体の現状、お悩みや地域課題

②各地域団体から見た東区の課題

③各地域団体から見た東区の理想のすがた

④東区のまちづくりに向けた提案・要望

(2)地域団体の調査項目ごと主な回答

【①各地域団体の現状、お悩みや地域課題】

- ・家庭環境の変化、熊本地震、コロナ禍の影響により、活動の見合わせや実施が難しくなり、地域住民と地域団体との関わりが減少した。(夏祭り、体育祭、どんどや、もちつき大会など)
- ・イベント等の地域のつながりなど、なくなったものを再建することは倍の手間がかかる。
- ・地域の見守り活動やごみ拾いなどの美化活動、花植え活動、健康増進活動など一部の地域交流事業は継続して行われている。
- ・校区自治協議会に未加入の団体があり、校区全体の取組ができていない。
- ・団体ができて十数年になるが、活動がマンネリ化している。

- ・コロナ禍が終わった後、行事が増えた時に上手く調整できるか不安である。
- ・コロナ禍による行事の減少や子ども会の解散により、校区内で会う小学生の顔と名前がわからなくなってきた。
- ・地域団体の担い手不足により、活動時の人手(人材)が不足している。特に、若い世代の担い手不足が最大の悩み。
- ・行政からの依頼が多くなっているが、担い手の不足により今後厳しくなっていくことを懸念している。
- ・各まちづくりセンターに地域担当職員が配置されて、地域活動がしやすくなった。

など

東区まちづくりビジョンの検証(結果)

【②各地域団体から見た東区の課題】

i. 道路事情の課題

- ・横断歩道が消えかかっているところが多い。
- ・通学路、歩道が狭い、暗い箇所がある。
- ・通学路を多数の車が通り、危険な箇所が多い。
- ・区民の車、自転車、歩行者の安全意識が不足している。
- ・幹線道路の渋滞が酷い。

ii. 情報共有・発信の課題

- ・情報の流れがスムーズではない。LINE等活用し、どの団体にも情報が伝わると良い。
- ・地域活動の基本となる自治会の大切さを教える発信の強化が必要である。

iii. 人材・団体活動の課題

- ・各種団体活動のボランティア参加者が減少している。
- ・役員が毎年変わる団体は、持続性が保てず消失の危機がある。
- ・地域活動に必要な担い手と予算が不足。自治連合会や自治協による支出にも限界がある。

iv. 行政の課題

- ・職員に余裕がないように思える。市民に一番身近な組織に見合う職員の配置が必要である。
- ・コロナによる臨時休校など不測の事態に対応できていない。学校、家庭、地域が連携して子どもたちが勉強できる環境整備が必要である。

【③各地域団体から見た東区の理想のすがた】

件数	分類	理想のすがた（抜粋）
10	交流 (地域交流・世帯交流)	「世代を超えた 繋がりのあるまち」、「住民が親しく笑って交流するまち」、「子ども達を含めた住民の方々の孤立を招かないまち」、「ぶらり散歩するのが楽しくなるまち」 など
9	安全・安心	「安全・安心なまち」、「伸び伸びできるまち」、「全ての人にとって安全な生活ができるまち」 「一人ひとりの安心感・居場所のあるまち」、「通学に要する交通面で配慮がされているまち」など
7	地域活動	「まちおこしが活発なまち」、「子どもを見守り、補助しながら、お祭りやイベントを通して賑やかで活気のあるまち」、「市民協働に本気で取り組むまち」 など
4	福祉・健康	「こころとからだの健康なまち」、「老人に優しいまち」 など

東区まちづくりビジョンの検証(結果)

【④東区のまちづくりに向けた提案・要望】

件数	分類	東区のまちづくりに向けた提案・要望(抜粋)
8	「交流・場づくり」 に関すること	・高校生・大学生ボランティアを先生とした子どもの学習の場が必要である。 ・子ども食堂や無料の学習塾など居場所づくりが必要である。 ・連携するにはそれぞれを知らないといけないのでまずは交流できる場を作る。 ・世代間の交流を実感できる場を作る。 ・高齢者から若者へ伝承する事を学ぶ機会を作る。 など
6	地域と行政の連携 に関すること	・小中学校、高校、大学との連携を1年ずつ時間をかけて増やしていき、試行錯誤し、「地域のことを考え、地域で生きる市民」を増やす。 ・まちづくりセンター管轄自治協議会連絡会を開催する。 ・他団体の活動の情報を知りたい。 など
3	子育て支援 に関すること	・教育相談会などを実施する。 ・子ども食堂利用の予約方法が、平日の日中で電話のみの受付となると、日中に保護者が仕事をしている家庭の子どもは予約ができず、食堂を利用できない。
3	政策や施設・設備 に関すること	・子どもたちが安心して利用できる設備の充実した図書館を設立してほしい。 ・学校のプール、更衣室を整備してほしい。そのほか衛生面、災害面で不安があるため特にトイレの整備が必要である。 など
11	その他(2件以下) ※道路や交通に関する事、地域 支援に関する事など	・小学生、中学生の通学路が危ないところ、暗いところが多い。 ・渋滞を避けるため車が住宅地に進入することで危険箇所が増えたため、出来るところから安全対策をしてほしい。 ・校区の民生委員、児童委員のなり手がいない。やる気が出る活動内容になるようアドバイスがほしい。 ・まちづくりセンター職員は、可能な限り頻繁に異動しないでほしいし、異動される際には引継ぎを丁寧にしてほしい。 ・水前寺公園⇒上江津湖公園⇒動植物園⇒広木公園ジョギングコースの素晴らしさを知ってもらいたい。 など

東区まちづくりビジョンの検証(結果)

県立大学生へのアンケート結果

懇話会委員の皆様の意見や話し合いを見た感想(抜粋)	今後の東区のまちづくりのために必要だと思うこと(抜粋)	東区の目指すべき理想像(抜粋)
・まだ東区について知らないことばかりだと改めて感じた。また、年齢や職業によって視点が異なり、今回の東区まちづくり懇話会で「そうだったのか!」と初めて知ることも多くあった。このような機会が設けられていることで、東区を今以上に良いまちにできるのではないかと思った。 ・専門家の方々の意見を直接お聞きすることができ、貴重な体験だった。幅広い年齢層の方が参加すると、複数の視点から話し合いができると思う。 ・東区には、より住みやすい町づくりを目指している自治会が多くあることを初めて知ることができた。自治会に関わる機会といえば草むしりや町内大掃除など少なかったため、自治会長さんの顔も見ることがなかった。より良い町づくりについて会議を開かれていたかもしれないが、私自身興味を持っていなかったため知る機会がなかった。 ・まちづくりについての話し合いに初めて参加したため、裏側を知ることができてとても勉強になった。話し合いの流れが分かりづかったため、どのようなテーマを元に話し合うかが定かになっていなかったと感じた。	・交通渋滞がひどい。長崎と比べて市電乗り場が狭く、付近の横断歩道も危ない。 ・何より今回のように話し合う機会を設けることが必要だと考える。お互いの意見交流ができる機会があることで、情報発信が一方的になることを少しでも減らし、東区が抱える課題をより明確にすることができないのではないかと思う。 ・東区は確実に私が住む南区よりも多方面で活性化されていると感じた。交通面で、大変混雑しやすいと常を感じるので、公共交通機関を便利にすると解決すると思う。 ・幼少期のときと比べ、現在は地域の方と触れ合う機会が減少していると改めて実感した。子ども会や地域での集まりの場が以前のように提供されるようになることで、地域間の交流を増やすだけでなく、地域の人々の健康や安全安心の確保にもつながるのではないかと考えた。 ・子どもの不登校が近年問題となっていることを耳にする。私はこの課題の解決もとても重要な問題なのではないかと思う。子どもたちがのびのびと育つことができるようにするための取組も重要な課題だと考えた。	・どの交通手段を使っても安全に快適に暮らせるまち ・自然豊かなまち ・住みやすく、子育てがしやすいまち ・”お隣さんは顔見知り”なまち ・”歩けば挨拶あたりまえ”で呼び込むまちづくり ・ワーク・ライフ・バランスに特化したまち ・高齢者や認知症の方も安心して暮らすことができる東区 ・地域での世代を超えた関わりあいのある東区 ・子どもがのびのびと学び、安全に過ごすことのできる東区 ・子どもだけでなく、親にとっても過ごしやすく、子育てがしやすい東区

ビジョンに基づく区役所の取組等

ビジョンに基づく区役所の取組等について(基本方針1)

基本方針1 人と人とがつながり世代を越えて語り合えるまち

重点的テーマに基づき実施した取組

【地域コミュニティ活動への参加促進】

- 自治会への加入を啓発するグッズ(のぼり旗、チラシ)の配布
- 若者、子育て世代、高齢者間で新たなコミュニティが構築されることを目的に、まちづくりセンターのロビーでワークショップ等を開催(あさひばりビング)
- 地域主体で開催される文化、スポーツの催しに区長賞を提供し、地域・世代間交流の活性化を促進

・自治会加入
啓発グッズを
作成



【地域団体の育成・支援】

- 地域のICT化を支援するため地域団体役員等を対象にICT講座を開催したほか、まちづくりセンターにICTに関する相談窓口(サポートコーナー)を開設
- 地域が抱える課題を解決するため、地域と地域に貢献したい企業をマッチングするワークショップを開催
- 自治会、自治協議会等へ補助金を交付
- 新任自治会長向けの研修、自治協議会の連絡会を開催

・地域と企業をマッチング
するワークショップ開催



【地域の歴史・文化の活用】

- 託麻新四国八十八ヶ所散策マップ、託麻三山案内板を作成し、ウォーキングイベントを開催
- 四時軒、小楠公園など秋津川周辺を巡るイベントを開催

・託麻三山ウォーキング

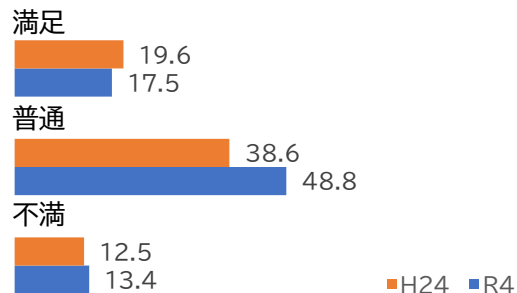


ビジョンに基づく区役所の取組等について(基本方針1)

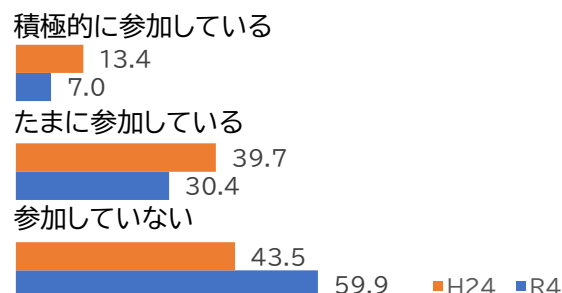
基本方針1 人と人とがつながり世代を越えて語り合えるまち

市民アンケートから一部抜粋

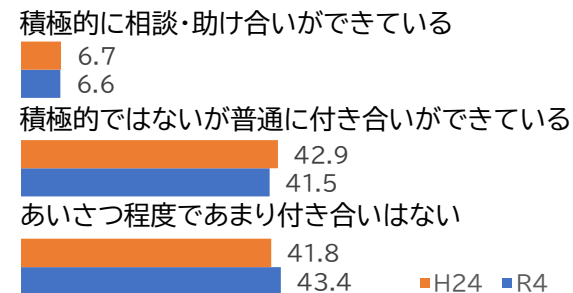
自治会などの地域活動が充実



地域活動に参加している



「近所のつながり」の現状



まとめ

検証から見た現状、課題等

- コロナ禍等の影響による活動の縮小、停滞により地域と地域団体の関わりが希薄になり、また地域活動の情報発信も限られたため、地域活動への参加者が減少している。
- 地域活動に必要な担い手と予算が不足している。
- 市民アンケートにおいて、「地域の歴史に触れる機会が多い」「多彩な文化に親しむ機会が多い」ことに「満足」している方は、回答者のうち、どちらも1割に満たない。

今後の取組の方向性

- アフターコロナの地域団体の活動再開への協力、支援
- LINE、SNSなどを活用した新たな地域活動の展開及び世代間の交流促進による若い世代の地域活動加入の推進
- 地域の歴史等に触れる機会の創出

ビジョンに基づく区役所の取組等について(基本方針2)

基本方針2 誰もが安全で安心して過ごせるまち

重点的テーマに基づき実施した取組

【防犯活動の推進】

- 地域の方が日常の散歩、ジョギングのついでに防犯パトロールする活動を支援(ちょこっとパトロール)
- 区の広報車による防犯パトロールを定期的を実施

・ちょこっと
パトロール



【交通安全対策の推進】

- 東区内の高校の正門等において、登校時間帯に高校生と協働で交通安全啓発グッズを配布
- 市民交通安全の日(毎月1日、10日、20日)等の早朝に区の広報車による交通安全啓発パトロールを実施

・高校生と協働
で交通安全啓発
グッズを配布



【災害に強いまちづくり】

- 地域と合同で防災訓練を実施
- 熊本地震の経験、教訓を忘れないため、防災に関する知識を楽しみながら学べるイベントを開催(あさひば防災フェスタ)
- 校区防災連絡会・避難所運営委員会の設立
- 東消防署、消防団、東区土木センター等の関連機関との連絡会議を開催

・「あさひば防災
フェスタ」で避難
所生活を体験

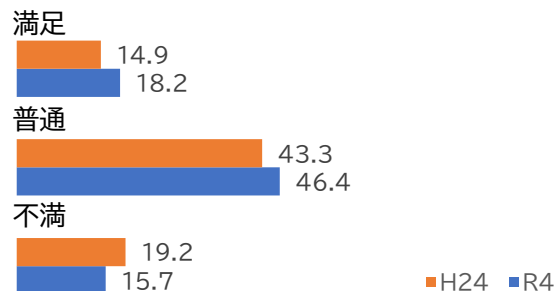


ビジョンに基づく区役所の取組等について(基本方針2)

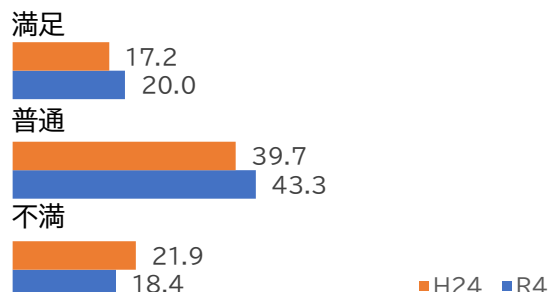
基本方針2 誰もが安全で安心して過ごせるまち

市民アンケートから一部抜粋

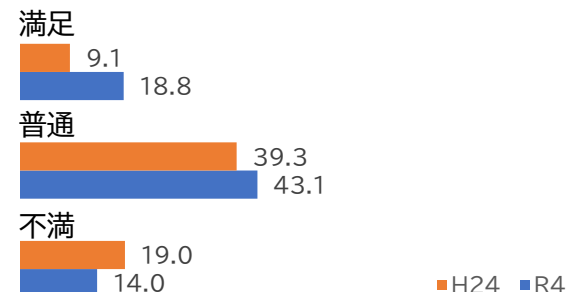
地域の防犯体制が整っている



交通安全への取組が充実



災害に強いまちづくりが進んでいる



まとめ

検証から見た現状、課題等

- 通学路等の歩道が狭く、暗い箇所がある。車、歩行者の交通マナーが悪い。
- 大雨、台風等で冠水、倒木被害が発生する箇所がある。
- 災害が発生した際に、高齢者の方、障がいがある方などの連絡体制等を整えておく必要がある。

今後の取組の方向性

- 防犯、交通安全に関する啓発活動の更なる推進
- 災害発生にも対応できるよう地域コミュニティの充実

ビジョンに基づく区役所の取組等について(基本方針3)

基本方針3 誰もがいきいきと暮らせるまち

重点的テーマに基づき実施した取組

【健康づくり活動の推進】

- 健康づくりをテーマとした取組を地域と一緒に実施するボランティア「健康まちづくり推進員」を養成
- 80歳で自分の歯を20本保つ運動を推進する「8020推進員」を養成
- 我が家の食卓を充実させ、地域の健康づくりを実践するボランティア「食生活改善推進員」を養成

・8020推進員による推進活動



【子どもの育成環境づくり】

- 地域団体等が連携して子育て環境の充実を目指す「子育て支援ネットワーク」の活動を支援
- 子育てを楽しんでもらうため、子育てに関する情報を掲載したマップ「あつまっぷる」を校区単位で作成
- 保育園、幼稚園、地域の方等で構成される「食育推進ネットワーク」でレシピ集を作成し、子どもの食育を推進

・子育て情報マップ「あつまっぷる」を作成



【みんなで助け合う福祉のまちづくり】

- 認知症の方とその家族を支える認知症サポートリーダー「認とも」を養成
- 認知症声かけ訓練の実施を支援
- 区民の自立(自律)意識の醸成と共助の取組の推進のための広報・啓発を実施

・オンラインによる「認とも養成講座」を開催

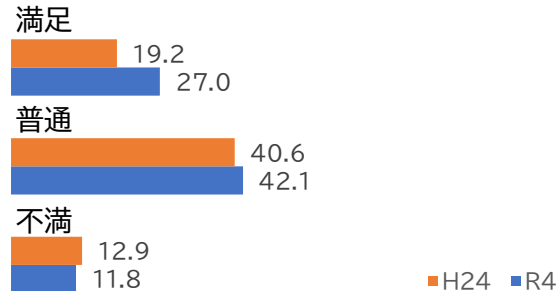


ビジョンに基づく区役所の取組等について(基本方針3)

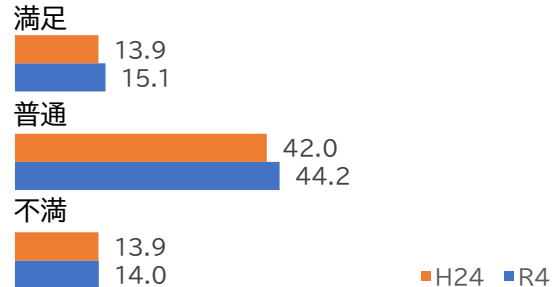
基本方針3 誰もがいきいきと暮らせるまち

市民アンケートから一部抜粋

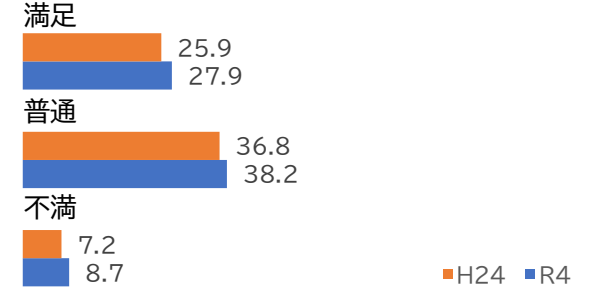
高齢者が安心して暮らせる



健康づくり活動の環境が整っている



子育てしやすい環境が整っている



まとめ

検証から見た現状、課題等

- コロナ禍等の影響で外出する機会が減り、引きこもりがちな高齢者が増加し、健康面が心配である。
- 子どもを預けることのできる施設(保育園、育成クラブ等)や安心して遊ばせることができる公園など子どもの遊び場が不足している。
- マンション等の集合住宅では、近所の付き合いが特に少ない。高齢者の単身、2人世帯も増えており、共助の仕組みの充実化が必要である。

今後の取組の方向性

- 健康づくり活動の更なる推進
- 子どもが多世代とも交流できる遊び場の創出
- 企業や学校など関係機関と協議しながら連携を図り、アフターコロナの支え合いの在り方等を検討

ビジョンに基づく区役所の取組等について(基本方針4)

基本方針4 美しい自然を守り育てふれあえるまち

重点的テーマに基づき実施した取組

【地域自然の保全と活用】

- 託麻三山や秋津地区に咲く蓮華(れんげ)畑を散策するウォーキングイベントを開催
- 水前寺江津湖公園(広木地区)のボランティア清掃を実施

・ウォーキングイベント「フットパスin秋津」を開催



【まちの美化活動の推進】

- 小学生によるごみステーション美化に関するポスターコンクールを開催。作品をごみステーションに掲示し、ごみステーション美化を啓発
- 道路、河川、公園を清掃されたボランティア団体に報奨金を交付
- 町内自治会等へ道路や公園などの公共の場所を清掃する「一斉清掃」の呼びかけを実施

・コンクール作品をごみステーションに掲示し、美化を啓発

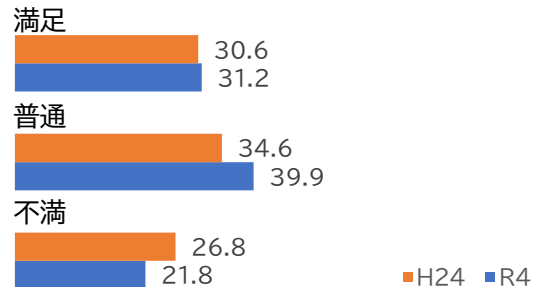


ビジョンに基づく区役所の取組等について(基本方針4)

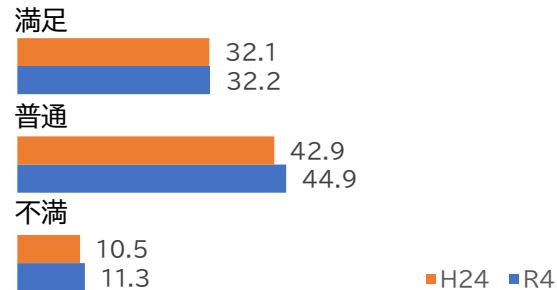
基本方針4 美しい自然を守り育てふれあえるまち

市民アンケートから一部抜粋

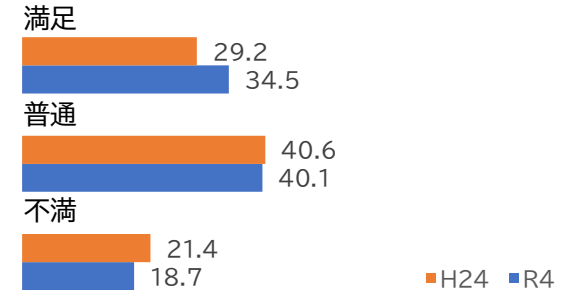
騒音・振動・悪臭などの公害が少ない



自然が守られている



清潔でゴミが少ない



まとめ

検証から見た現状、課題等

- 江津湖など身近に自然を感じることでできる環境が整っている。
- ごみ出しのマナーが悪く、ごみステーションの維持管理が大変である。

今後の取組の方向性

- ボランティア清掃等による自然環境保全の継続と魅力向上につながる取組の実施
- ごみに関する情報発信(分別方法、ごみステーション維持に関すること等)の強化

ビジョンに基づく区役所の取組等について(基本方針5)

基本方針5 暮らしやすく活気あふれるまち

重点的テーマに基づき実施した取組

【地域に根ざした経済の活性化】

- 東区民まつり(※)を開催し、物品の販売や地域の取組などを披露する場を設け、地域の活性化を促進
(※東区民まつりは、令和4年度から地域主体による開催へ移行)
- 東区の若手農業者による朝市の開催や経営研修を実施し、ネットワークづくりを推進
- 「健軍自衛隊通り桜まつり」の開催に協力

・東区民まつりにおいて地元農産物を販売



【生活環境の整備促進】

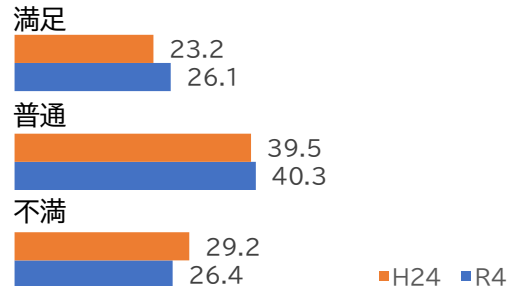
- 東区内の道路、河川、公園の維持管理
- 道路、河川、公園を清掃されたボランティア団体に報奨金を交付(再掲)

ビジョンに基づく区役所の取組等について(基本方針5)

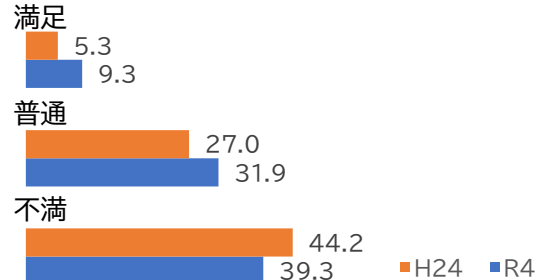
基本方針5 暮らしやすく活気あふれるまち

市民アンケートから一部抜粋

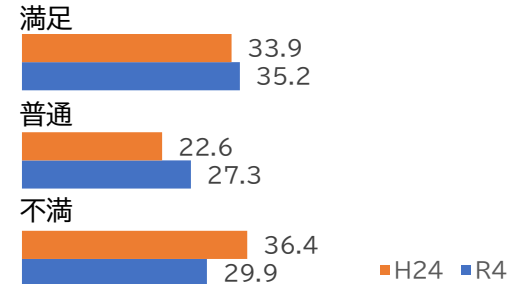
道路や歩道などが整備されている



地元商店街が賑わっている



公共交通機関が利用しやすい



まとめ

検証から見た現状、課題等

- 「地元商店街が賑わっている」ことに「満足」している割合が10年前より増えているものの、「不満」とされた方も4割近くおり、特に秋津及び東部まちづくりセンター管内の校区において「不満」とされた方が相対的に多かった。
- 「公共交通機関が利用しやすい」ことにおいて、東部まちづくりセンター管内の校区では「満足」が多い一方で、託麻まちづくりセンター管内の北東部では「不満」としている方が多いなど地域差が見られた。
- 歩道に段差があったり、白線が消えかかっていたりと道路の整備が行き届いていない箇所がある。

今後の取組の方向性

- 地域が開催するイベント、取組などを応援し、地域が実施する賑わい創出を支援
- 所管する部署と連携を図り、道路・河川・公園の維持管理を徹底

これからのまちづくりの方向性について

これからのまちづくりの方向性について

- これまでの取組について、一定の効果を実感されたテーマもあれば、実感されていないテーマもある。
- これまでのまちづくりの方針を継承及び更なる推進を図るとともに、新たな価値観、社会情勢の変化に対応したまちづくりが必要。

これからのまちづくり

